

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第3号を公表しましたので送付します。

特 殊 報

令和3年度（2021年度）発生予察特殊報第3号

令和4年（2022年）3月23日
熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 タバコノミハムシ（コウチュウ目ハムシ科）
- 2 学 名 *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer)
- 3 発生作物 ホオズキ（ナス科）
- 4 発生確認の経過
令和3年（2021年）7月、県内のホオズキ栽培ほ場において、葉に数mmほどの円形の穴が複数生じる症状と小さなハムシ成虫の寄生が確認された（図1、2）。当該ほ場から上記のハムシ成虫を採集し、病虫害防除所で確認したところ、タバコノミハムシであることが疑われたため、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼し、その結果、タバコノミハムシであることが判明した。
- 5 国内外の発生状況
国内では、平成23年（2011年）に群馬県で初めて本種の発生が確認され、その後、九州から北陸、関東に至る各地で本種の発生が報告されている。
本種は中央～北アメリカ原産の侵入害虫で、アメリカ合衆国ではタバコの重要害虫とされている。
- 6 形態及び生態等の特徴
 - （1）形態
成虫の体長は1.5～2.5mmで、長楕円形でやや扁平であり、密な短刺毛に覆われ、後脚の腿節が顕著に肥大している。体色はやや光沢のある赤褐色で、上翅には不明瞭な黒斑がある（図3）。
 - （2）生態
本種はホオズキ等のナス科植物を寄主とし、成虫は葉を、幼虫は根を食害する。卵は地表に産み付けられ、ふ化した幼虫は地中で根を食害した後、地表近くで蛹化する。また、成虫は刺激を受けると、肥大化した後脚を用いて活発に跳躍する。

(3) 被害

成虫は葉の表皮を残して食害、もしくは葉を貫通して食害する。このため、直径1～2mm程度の白い斑点状の食害痕や円形の穴が多数観察され、葉が生長すると食害痕が円形の大きな穴となる。

(4) 寄主植物

ナス科植物を寄主とし、国内ではホオズキ、ナス、トマト、バレイショといった農作物での被害が報告されている。

7 防除対策

(1) 令和4年3月23日現在、ホオズキにおいて、本種に対する登録農薬は無い。

(2) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

(3) 本種の発生が確認されたほ場の栽培終了時には、付近のナス科作物に本種が移動しないように速やかに片づけを行う。



図1 ホオズキ葉におけるタバコノミハムシ成虫による円形の食害痕



図2 ホオズキに寄生するタバコノミ
ハムシ成虫



図3 タバコノミハムシ成虫

※図3の画像は大分県農林水産研究指導センター提供

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所
予察指導室) 担当: 中村、中井
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493